

現認證明書

24-10

本籍地

[Redacted]

現任所

令

氏名

[Redacted]

所屬部隊

陸軍第三師團 第一師團 第一師團

官等級

陸軍少佐

一徵發後種

昭和 年徵發 一師團 陸軍少佐

一死亡年月日

昭和 年 月 日

一死亡場所

山西省 高北 三 山

一死亡區分

戰死

一死亡事由及病名

發病年月日 昭和 年 月 日 有 會 經 軍 醫 檢 査

現認事

戰死

一遺骨の有無

ナシ

一遺族現任所續柄氏名

[Redacted]

右 相 違 意 之 意 之 證 明 書

現認者官等級 陸軍少佐

陸軍第三師團 第一師團 第一師團

昭和 年 月 日

[Redacted]

現認證照書

29-10

本籍地

[Redacted]

現住所

今 [Redacted]

氏名

[Redacted]

所屬部隊

曉五三一部隊 年 月 日生

官等級

陸軍中尉

一 徵集後發給

昭和 年 月 日 第一師 輕重兵

一 死亡年月日

昭和 年 月 日

一 死亡場所

此名及之東北三千里 元之山

一 死亡区分

戦死

一 死亡事由及病名

發病年月日昭和 年 月 日 戦死

現認事

戦死

遺骨の有無

ナシ

遺族現住所続柄

母 [Redacted]

右 相違

無 意 旨 之 誤 認 者 否 一 旨

現認者官等級

陸軍中尉

曉五三一部隊

昭和 年 月 日

状況不明者の資料届

本籍地

伍長

所属部隊 固有名 建築勤務第三七中隊

通稱 尚武第四八三九部隊

死亡年月日 昭和二十年九月十日 死亡場所 北都呂宋島第二R村

死亡区分 マリヤロイ

不明者と近郷の収遺品と同一 (西洋カミソリ) 持参したるも収容

所収取上テラレ遺留品日し遺髪日中隊長持参し居るハナ

不明者同のハジラに埋葬した

尚武第四八三九部隊

兵

現認者		死者				現認	
職名	所属部隊	現住所	死	亡	年	所屬隊	證明書
自動車修理兵	比奈波濱渡		場所	区分	時刻	本籍地	個名
官等兵	渡才一〇六八部隊		比島ハギエ(山奥)	南木戦死	昭和二十年九月十日		自動車廠
姓名			遺骨の有無	傷名	時刻		通称
			無		十時〇〇分		渡才一〇六八部隊
					昭和二十年九月十日		

右の通現認す

昭和二十三年四月廿五日

23

23

戦死証明書

一、戦死者本籍地

戸主名 納戸主 氏名

佐野

氏名

年 月 日生

二、所屬 國名 部隊名

第1師團 歩兵第1旅団 第1師團 歩兵第1旅団

三、戦死者初年

昭和六年 兵種 歩兵 死亡前官等 少尉 昭和六年 月 日

四、戦死年月日時刻及場所

昭和二十五年六月 八日 山形県 山形市

五、戦死原因ノ程度

田中(度々)

六、遺骨歸還ノ有無

無

七、戦死當時ノ状況ノ概要

本人は八月十日十六日三浦半島で戦死した。戦死した時、敵機が上空を飛行し、本人は敵機の攻撃を受けた。本人は戦死した時、敵機の攻撃を受けた。本人は戦死した時、敵機の攻撃を受けた。

八、死亡区分

戦死 事由 疾病 年月日 昭和 年 月 日

九、其ノ他

昭和二十五年七月二十日 山形県 山形市

二、遺族ノ現住所

戦死者ノ親類

氏名

右ノ通り戦死セラレタルコトヲ證明候也

昭和 年 月 日

証明者住所

戦死者ノ関係

所屬部隊名

第1師團 歩兵第1旅団 第1師團 歩兵第1旅団

氏名

市町村長證明箇所

佐野 市町村長 証明箇所

1787

1787

戰死證明書

一、戦死者本籍地

戸主名 概稱

戸主

氏名

年 月 日生

09-10

二、所属部隊名

陸軍 第五受部隊

三、戦死者勲章年

昭和十二年 復種現役 兵種 歩兵 死亡前官等 陸軍少佐 年 月 日

四、戦死年月日時刻及場所

昭和十二年 九月十日

五、戦死現認ノ程度

現認

六、遺骨歸還ノ有無

有

七、戦死當時ノ状況ノ概要

中義心ヲ我軍中受傷之陸軍少佐ニ復シ
入院中ニテリヤ養病中ニ九月十日陸軍少佐ニ戦死ス

八、死亡區分

戦死

事由

昭和 年 月 日

九、其他

（註）此ノ死亡者ニ對シテ、軍醫官ニテ、死後ニシテ、死因不明ナル者、又ハ不明死入、軍立者、以上陸軍年月日及上段

一〇、遺族ノ現住所

戦死者ノ親類

氏名

右ノ通り戦死セラレタルコトヲ證明候也

昭和 年 月 日

證明者住所

戦死者ノ關係

所属部隊名

陸軍 第五受部隊
兵種 少佐 官等 陸軍少佐

氏名

市町村長證明箇所

右様 達 幸 氏

印

陸軍

現認(事實)證明書

本籍

部隊名 秘歩五四五大隊 二等兵

一死之年月日 昭和五年九月十日

一死之場所 比島カバン部隊上山甲

一傷(病)名 マラリア為栄養欠調ニ依ル

一死之正分 戦病死

一當時状況 経戦ノ通知ニ受ケルマラ降ル前日マラリアニ依リ衰弱ヒトク其

ニ食物ヲ食ハズ為テ遂ニ栄養欠調ノ為倒ル

右之通証明ス

昭和五年十月三十日

元根歩五四五大隊 陸軍上等兵

印



現認証明書

世話録

故

昭和三十年七月十五日

右は昭和十九年十月第四回船舶場百令部竣工要覧として
 採用したマモンガン工場におき、勸業中昭和三十年七月十五日
 敵迫撃砲の集中攻撃を受け負傷（右胸肋骨骨折）治
 療中遂に昭和三十年九月十日に於て大島外に於て死
 ンにおして死せり

右理認す

昭和三十年十月十日

第〆船舶輸送司令印セバ支部のバ才也張以長代部

元陸軍少佐



右現認ス

死亡理由

死亡区分

死亡年月日

死亡場所

死亡原因

死亡診断書

死亡届出書

死亡届出票

死亡届出票

死亡届出票

死亡届出票

死亡届出票

死亡届出票

死亡届出票

本籍地
部隊名
官等兵名

戦死

14
12
島

20
9
12

軍
兵

30
F

現認証

飛行二六六隊

90-11

現認証
 本籍地
 部隊名 30 FC
 官等氏名
 死亡年月日 20 9 12
 死亡場所 ルソニ島の
 死亡区分 戦病死
 死亡理由 マリヤ
 右現認証

本籍地
 部隊名
 官等氏名

飛行二〇〇隊

及地保美養老調

92-10

凡七者尋實(現認)證明書

一本以籍地

一現住所

一折屬部隊

一級集等

一石(海)比和工

部

陸軍第四師隊

(官三和勤送司令部)

昭和六年

官等送陸軍部長

九

月

日

時

分

...

...

...

二十二年二月十二日

附屬部

官署

氏名

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

昭和十五年五月

本籍地	所屬部	姓名	生年月日	勤務地	階級	備考	死亡
[Redacted]	第百五師團通信隊	[Redacted]	[Redacted]	提議作對參加(分隊員)	兵五歩兵	上記[Redacted]マラリアニ罹リ 昭和十五年九月十日同地ニ野戦病院ニ 入院ス	死亡時ノ状況 [Redacted]兵長ヨリ通報確知ス
現住所	本籍地	氏名	生年月日	勤務地	階級	備考	死亡
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]
現住所	本籍地	氏名	生年月日	勤務地	階級	備考	死亡
[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]	[Redacted]

第百五師團通信隊
官一級 渡氏 名 陸軍軍醫中尉



戰時死亡現認證明書

官氏名印	現認者所屬	傷(病)場所		死	亡	内地港灣出發年月日	勤務ノ概要	留守擔當者住所氏名	官等級氏名	所屬部隊(固有)	本籍地	區分
		年月日時	傷(病)名									
地 二六七	昭和二十二年三月十七日			昭和二十年九月十二日十二時三十分(傷病)死、公務死、死	左腹部及胸部彈創破片傷(創一即死)				陸軍少長	二兵第二十三聯隊第三中隊		
陸軍上等兵	上陸復員者											

地 二六七 陸軍上等兵

上陸復員者

21/3

①の記載上の注意並に原簿欄日表等には記載上の注意が
 本表中※印の欄以外は世話部にて記すものとす

部	隊	科	隊	部
所屬部隊	獨歩七九旅團	獨歩	獨歩	獨歩
姓名	キヤンガニ	キヤンガニ	キヤンガニ	キヤンガニ
階級	上等兵	上等兵	上等兵	上等兵
出生年月日	昭和二十一年九月十日	昭和二十一年九月十日	昭和二十一年九月十日	昭和二十一年九月十日
死亡年月日	昭和二十一年九月十日	昭和二十一年九月十日	昭和二十一年九月十日	昭和二十一年九月十日
死亡場所	北都島	北都島	北都島	北都島
死亡原因	分隊被傷後、火傷死	分隊被傷後、火傷死	分隊被傷後、火傷死	分隊被傷後、火傷死
備考	出彙直に間トラワノヲ、発火焼死ス	出彙直に間トラワノヲ、発火焼死ス	出彙直に間トラワノヲ、発火焼死ス	出彙直に間トラワノヲ、発火焼死ス
備考	キヤンガニ	キヤンガニ	キヤンガニ	キヤンガニ
備考	現地埋葬	現地埋葬	現地埋葬	現地埋葬
備考	公報	公報	公報	公報

昭和二十一年 月 日

死亡者調査表

昭和二十一年 月 日 調査部 調査員

66-10



独立歩兵第七百九十一隊第一中隊
北島次威第一一四部

二十二年 三月 十二日

陸軍部 独立歩兵第七十九大隊第三中隊
陸軍歩兵軍曹
死亡の経緯
行動間同行者

昭和一四	予備役	兵	上等	昭和三十二年	北津濱	要性	マシリヤ	マシリヤ	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死
昭和一四	兵	上等	昭和三十二年	北津濱	要性	マシリヤ	マシリヤ	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死
昭和三十二年	北津濱	要性	マシリヤ	マシリヤ	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死
昭和三十二年	北津濱	要性	マシリヤ	マシリヤ	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死
昭和三十二年	北津濱	要性	マシリヤ	マシリヤ	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死	戦病死

無シ

事實(現認)證明書

本籍地

現住地

右の者

馬場川陸軍航空隊第九機五番隊

所属部隊 固有部隊名

通稱 通稱名

武一五三

官等級氏名(死亡前) 技師上兵

大正二年十一月二十日生

右の者昭和二年九月十四日午後四時 分

乗機(機名)に於て二病死(病傷名) (マラリヤ)したことを証明する

昭和二年八月十八日

所屬部隊

隊員十三三三部隊

現住地

死亡者との關係

(舊)職官等級氏名

1572

同 現住所	見方 七 隊	<p>私に最後は... (口をきりながらの遺言あり)</p>	<p>今指し住所... 同時に死す... 私に思ふは自分は最後かある</p>	<p>私に渡す... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>
同 現住所	見方 七 隊	<p>私に最後は... (口をきりながらの遺言あり)</p>	<p>今指し住所... 同時に死す... 私に思ふは自分は最後かある</p>	<p>私に渡す... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>
同 現住所	見方 七 隊	<p>私に最後は... (口をきりながらの遺言あり)</p>	<p>今指し住所... 同時に死す... 私に思ふは自分は最後かある</p>	<p>私に渡す... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>	<p>私に... 思ふは九月の十四日十九時頃無罪に私に引渡し</p>

お復 出さの火長崎なるを謀り申請し申渡す
また 小生理直志記の計に依り所にて
田舎の廻道と参り所を早送申渡す
申すの如き事

高野 一平

歩兵第... 聯隊 第三大隊 本部 要員とて 小生と新
勤と共に... 二〇年九月十四日 病弱を以て 患名
収容所計に 収容されし (場計名不明) ホントウノ
道五六ヶ附近 大カキヤン? と記憶し... (小生と新)

患名 輪廻の道... (小生と新)
と記憶し... (小生と新)
新井は... (小生と新)

右の患名 収容所... 収容所... (小生と新)
生還し... (小生と新)
前念の存 収容所... (小生と新)

重信

右内容并に計の品は米の重信に收容せしむる

事(一)右重信物の計は果例の山の米を

指すに多前作の米を産病患の品を收容して

はたしめしむる

米調を病患におき

勿論食糧の補給もさく

病患と飢とを

病死と北のと思はれます

中尉(?)第十中隊長

に記憶して居ますから一應當時の状況とし

照合と見こしを

患病收容計の病人達は米等の現地

を便に搬送したと云ふ事と聽き及た

送達中死亡す北の由地には通知の事

名簿等も又部隊と全部

入る事

しきりていかに知らぬ同志のなつたので、
知らぬとやらと云ふ事、
（マニラ）の先記を以て通知の事、
の要は伊ひなり。

の遺族は左の幾人を書き
生還の見込みが旨の平紙と云ふ
出たは、
と田舎の衆に記して、
状態は、
日曜日までと云ふ事、

善都の部合

- 1. フロク山バラサ峠に於て終り
- 2. ホントウ御道 五六ヶ附近 大カマヤンク、
（五六ヶ近五ヶの地帯）
物々 五六ヶ物々
マニラ（生えぬとす水）

尚何の病状と食糧・薬品・本人の氣力よきと患部收
容計に死せしむると思はれる

3. [Redacted]

十年餘其は患部收容計に收養

4. 二〇年五月頃よりマラカ及チンガに 此れは記憶す

罹患の 家次其患部收容計に
收容計に死せしむると思はれる 患部收容計に
收容計に死せしむると思はれる

右取急を以てして申す所なり

年月日

[Redacted]

改

[Redacted]